

学校法人相愛学園

理事長 相田 芳久 様

令和6年度

自己評価結果報告書

学校法人相愛学園 焼津幼稚園
園長 相田 早苗

理事長 決裁



令和6年度の園運営についての自己評価を実施いたしましたので、結果をご報告いたします。

主体的な子どもの姿を育てることを引き続き園内研修の根幹のテーマとし、今年度は2つの具体的テーマを設けて研修を進めてきました。昨年からの継続である“体幹を育てる”というテーマについては、子どもの様子に合わせて昨年同様ではなく、今の子どもの様子に合わせて計画を立てながら進めてきました。後に経験することを前提に計画を立て実践することで成果もみられたことは良かったと思います。もうひとつの“子どもの遊びを充実させるための室内の環境”については、各クラスで公開保育を行い互いに見合うことで研修を進めてきました。マンネリ化しがちな室内遊びの環境について考えることは学びのきっかけとなり、子どもの遊びを捉えようとする姿勢が出てきたと感じます。研修の時には意識出来ても、一年を通して…となると、忙しい時期にはおろそかになりがちなのは反省として残りました。

また、近年の子どもの発達の姿が変化してきて、教師側が目指す子どもの姿と実際の子どもの姿とのギャップが大きく、個別対応への比重が増え、難しさを感じている中、教育課程の見直しの必要性を痛感していますが、簡単な見直しは出来ているものの根本的な見直しがなかなかできないのが実情です。今年度は、焼津、豊田両園で教育行事についての話し合いを2回ほど実施できたことは良かったと思いますが、今後も継続し、学園として考えていきたいことであると思います。

以下、園長による自己評価、教員の自己評価等について、自己評価結果の報告として提示致します。

具体的な教職員の自己点検・評価については、本年度はクラス担任に、研修テーマについての振り返り、子どもへの自身の関わりを振り返っての考察について、級外教職員は、自らの職務、自身の子どもへの関わりや援助、安全管理について、各自で振り返りを行ったものをまとめました。また、保護者アンケートについては2月の“ようちえん通信”（園長通信）において、子どもの成長や園の運営について自由記述のアンケートを実施しました。

令和7年2月28日

I 「教育内容」についての検証結果及び改善策

近年の子どもの姿から体幹の育ちを支えようという昨年度のテーマを継続して取り組んだ。その年の子どもの様子に合わせて経験の内容を変えながら進めてきたが、他の教育活動等により年間を通して継続して取り組むことが十分に出来なかったという反省が残る。もうひとつは、室内での自由な遊びを充実させるための環境の工夫をテーマとして取り組み、各クラス園内での公開保育を行い、互いに構成や援助の工夫について学び合ったことで、マンネリ化した室内環境を子どもの遊びによって再構成する意識が持てるようになってきた。個別の対応を必要とする子が増えている現状の中、全体としての保育をスムーズに進めにくい様子も出てきていたり、全体の子どもの姿としてみても、子どもの姿の実態に合わせて保育のねらいを変えていく必要も感じたりと、引き続き考えていきたい課題は多

II 「地域の幼児教育センターとしての役割」についての検証結果及び改善策

未就園の会については、近年、小規模や保育所に通う子が増えていることも有り、参加者が減り、地域の子育て家庭に利用してもらおうというケースがかなり減っている。就園前の子どもの実態(保護者の就労状況や家庭での過ごし方、保護者の考え方等)がよくわからないこともあり、未就園の会の計画・運営についても課題が多いと感じる。在園児については、今年度も個の気になる発達の様子や保護者の子育ての悩み等必要に応じて面談の機会を設けたり、巡回カウンセラーや焼津市巡回相談、地域の相談機関などつないでいけるよう努めた。家庭の事情や教育力も様々で、子の育ちについて共有したり子への関わりについて共通意識を持つのが難しいケースも多い。

III 「安全管理」についての検証結果及び改善策

避難訓練では、地震・津波・火災(報告・消火・避難)等の対応の違いも伝えながら進めてきた。園内での子どものケガ防止のため、ヒヤリハットの確認を定期的実施し、全体で共有するようになった。

IV 「人事管理」についての検証結果及び改善策

パートも含め勤務体制が様々なので、それぞれに配慮しながら進めてきた。各々家庭の事情等で外出や早退等もしやすいようにカバーし合って進めてきている。長期休暇中の預かり保育について、シルパー人材派遣等も活用しながら、職員の負担の軽減にも努めている。

V 「財務管理」についての検証結果及び改善策

財務管理については、園児数も減少してきている現状を受けて、施設設備計画も吟味し、節約を心掛けたい。

「外部アンケート」からの検証結果及び改善策

年間の教育行事後に実施している保護者アンケートからは、園の教育や我が子の成長を理解し喜んで下さっている様子が窺えた。一方、共働き家庭も増える中PTA行事の役員の決め方やキャッシュレス化など今の時代を象徴するような要望もあり、どう対応していくべきか検討したい。保護者の考え方やニーズも年々多様化、また個別化してきていて、対応の難しさも感じる。

令和6年度 教職員自己点検・評価 まとめ（クラス担任）

○研修テーマ（室内あそびの環境・体幹）について、自身の取り組みを振り返っての考察

室内遊びが充実するための環境構成

- ・ その時々にも子どもの興味関心を踏まえた遊びを提供したいと考え、遊びに使えるものを用意するが、遊び方が乱暴だったり順番が守れず一緒に使って遊ぶことができなかったり、片付けが苦手だったり、長い期間保育者の介入が必要だった。落ち着きのなさや衝動的な行動も多くみられ、室内で落ち着いて遊ぶようになったのは2学期後半。級外保育者のサポートがとても助かり、室内での遊びが充実していくためには、担任だけでは難しいとも感じる。
- ・ 子どもが遊びを始めやすいように考えて設置した。ものを雑に扱う様子が見られ、片付けの動線を決めて実践したりしたが難しかった。学年で相談して環境を作り整えていくことも必要だと思う。
- ・ 園内公開保育もあり、意識して工夫したり見直したりすることが出来た。必要なものについて、園で購入してもらえるといい。園庭については、担当ということもあり気にかけて整えるようにしていたが、酷暑で外遊びがあまりできず、それ以降見直しがおろそかになってしまった。
- ・ 2学期半ば頃までは、安全に遊ぶ指導が主となり、室内の環境で遊びに使うものを増減させたり変化させきれなかったことが反省に残るが、3学期は子どもの遊びに合わせて試行錯誤しながら取り組んでいくことが、難しいけれど充実していると感じた。
- ・ 他クラスの環境設定で“いいな”“楽しいな”と感じたものは取り入れるようにした。また、子どもの遊びを見ながら、その遊びがより広がっていくように考えながら実践してきた。次年度も、今年度の学びを意識し、遊びが充実するための環境設定や遊びを楽しむためのルールづくりなども考えながら工夫していきたい。

- ・ 年度当初は、おもちゃが散乱していたり片付けがしにくい環境だったが、コーナーを作ったり静的な遊びを取り入れることで改善していった。他クラス的环境や遊びの様子を見て研修することで気づくことも多く、取り入れて工夫することが出来た。子どもの遊びがさらに発展していくようなきっかけ作りやアイデアなど自分自身の引き出しを充実していけるように努め、遊びに寄り添い、一人ひとりとの関わりを大切にしていきたい。
- ・ 子どもの遊びが盛り上がるように、必要と思うものをいくつか作ったところ、子どもも喜んで遊びに使っている。子どもの年齢に合わせて、幼い子になりきって遊ぶことが出来るものを用意することが大切であるとわかった。遊ぶものが乱雑になってしまいがちなので精選したり、遊び方、片付け方についても様子に合わせて声をかけるようにしたい。

体幹を育てる

- ・ よく転ぶ、転ぶ際に手が付けない、ものにぶつかる（周りをしっかり見ていない）、バランスが取れず片足で立てない…などの表れがみられ、できるだけいろいろな動きを経験したりリズム感などにも目を向けて、遊びや動きの種まきを繰り返し行うようにした。個人差もあるため、達成を目標にしないよう配慮したが、出来るようになってくると自信につながり、保護者の意識も変わってきた。
- ・ 動的な子が多いため、午後の時間はなるべく開放的になれる戸外遊びを行うようにし、体力面で成長を感じる。ただ、生活の中で、意識しないと姿勢や態度が悪く、じっとすることが苦手、常に体が動いてしまう様子が見られる子がみられ、声をかけたり意識させて莉してきたが、あまり改善がみられなかった。
- ・ 子ども達の体の使い方の苦手さに対応して、両足ジャンプやつま先歩き、かかと歩きなどの運動を年間通して実践した。体育あそびの講師にも相談をし、体育あそびの指導とも連携しながら取り組んだ。大きな変化は感じられないが、子ども達の取り組みの様子がスムーズに

なっていることに一定の効果はあったと感じている。

- ・ 学年で相談しながら、時には学年全体でやったりクラスでやったりしながら取り組んできた。行事の前になるとおろそかになってしまった。ただ、わんぱくキッズやなわとびカード実践の前に、それにつながる動きを遊びに取り入れたことは次につながり、なわとびへの取り組みもスムーズに感じられ、効果が上がったと思う。
- ・ 園庭の遊具に慣れ親しむことで、体の使い方や力もついてくるので、一緒に遊びながらいろいろな遊具に親しんでいけるようにしたい。

○自分自身の子どもへの関わりを振り返っての考察

- ・ 子どもの自我の育ちや、育ちの偏りなどの表れが様々で、対応に苦慮することが多かった。それぞれの様子に合わせ、時間や時期のめやすも柔軟に考えるようにし、級外のサポートも受け対応した。望ましくない行動については、“怒られた”という感情だけを残さないように、何が良くないのか、次はどうしたらいいか等伝わるように話していくこ心がけた。かんしゃく等への対応は、落ち着くまで時間や空間を整え、時間をおいて話すようにしていった。専門家のアドバイスや他保育者の対応から学んだり意見をもらったりすることも有効だった。
- ・ 子どもへの言葉かけは、子どもの人権を尊重するような言葉となるよう配慮してきたつもりだが、つい強い口調になってしまうこともあって反省する。いろいろな子どもの表れがあり、常に心にゆとりを持って対応することが大切で、冷静に行動できる自分でありたいと思う。
- ・ なるべくマイナスな言葉は使わないようにと考え生活するが、忙しくて自分に余裕がなくなると、うっかり…ということがあり反省する。
- ・ 個別の対応を必要とする子が増え、その対応が追い付かず、また子どもや保護者にその困り

感がなかったりして、悩むことが多かった。個の今の育ちの度合いに合わせ、大人がどう関われば成長につながるか、その子の成長につながるスモールステップはどんなことか、を常に考えてきた。子どもの発達の度合いに合った生活や経験、遊びに近づけていくことで、保育者も子どももゆとりをもって過ごせると思う。

- ・ 望ましくない行動を繰り返し、伝え方を変えても改善していかないことも多く、対応に苦慮する。
- ・ “この接し方はどうか？”“自分が親だったらどう感じるだろう？”など常に考えながら過ごしてきた。また、“今までの子ども達はこうだからこうできるだろう”という思いが先行しないよう、目の前にいる子ども達の様子に合わせてねらいを設定し、長い目で見守るように心がけた。余裕がなくなりそうになった時は、研修で学んだ“アンガーマネジメント”を取り入れて対応している。保育者間でも、子どもの課題に目が行きがちだが、子どもの良さにさらに目を向けて気づき合っていけるようにしていきたい。

令和6年度教職員（級外） 自己点検・評価 まとめ

□自らの職務についての考察

- ・ 個別の対応を必要とする子が増えてきている中、級外がどのようにサポートするのか
担任との打ち合わせがじっくりと持てないことが課題。
- ・ 子どもが落ち着いてきても、なるべく級外が入ってサポートするようにしたい。
- ・ 日誌の内容をもう少し効果的なものとなるようにするにはどうしたらよいか。
- ・ パートであっても一因として責任のある行動を心がけ、子どもと向き合うように努めたが、周りが見えていなかったり反省すべきところも多々あった。反省を生かしていけるよう、明るく前向きな気持ちで頑張っていきたい。
- ・ クラスのサポートへ入るタイミングが難しく、必要な時を見逃がしてしまうことがあった。
- ・ 大型絵本やパネルシアターなどの教材研究をすることが出来た。
- ・ 園芸の担当になったことで、季節を感じられるように花を育てたり、子どもが少しでも関心が持てるように工夫したりした。
- ・ 級外職員間で伝達等が出来るよう記録ノートを作成したりスケジュールを組んだりしながらできたことは良かった。これまで続けてきていることも、しっかりと見直しをしながらブラッシュアップしていきたい。
- ・ 自分の担当の仕事について、落ちのないよう何度も確認をしながら確実に出来るよう心掛けてきた。自分の出来ることについては、今後も知識を増やして取り組めるようにしていきたい。
- ・ 子ども読書アドバイザー養成講座を受講し、子どもの本について学び、各クラスに入って読み聞かせの実践が積めた。今後も学んでいきたい。おすすめの絵本等を先生たちにも積極的に紹介していきたい。

- ・ 預かり保育では、子どもが安心して過ごすことが出来るよう心掛けた。援助が必要な子が多く、対応について担任と相談し担当者間で対応を工夫し連携しながら援助してきた。より一層子どもに寄り添い、子どもの笑顔を増やしていきたい。

□ “子どもの主体性を育てる”という観点から、自身の子どもへの関わりや援助、支援についての考察

- ・ 自分らしさを表現すること（それが好ましくない姿であっても）を否定しないように心がけてきたが、大人の価値観や判断で『こっちがいい』『こうしたら良い』と声をかけてしまうこともあり反省する。けじめがある上で、集団生活の中で“周りに合わせるように”“とならないように”と願うが、まだその環境が作りだせていない。子どもがやってみたいこと、遊びがしやすい環境設定の工夫は次年度も続けたい。また、カリキュラムの見直しも必要。
- ・ 子どもの“やりたい気持ち”を大切に出来るよう、指示をする言葉は減らし、子どもの可能性を信じて見守るよう心掛けたい。夏休みにたくさんリモート研修を受講でき、主体性について考えることが出来た。
- ・ 一人ひとりに寄り添った援助を心がけることで、不安げだった子も笑顔で楽しく園生活を送ることが出来るようになり嬉しかった。半面、手を出しすぎて子どもの自主性を育む機会を削いでしまったと感じたこともあったため、見守る姿勢を大切にしたい。
- ・ 少ない場面だけで子どもを理解したような気持ちになって先入観をもって接するのではなく、いろいろな場面を知ることを心がけたい。
- ・ 園庭で遊具に挑戦している子には、その子の様子に合わせて励ましの声をかけ、次への意欲が持ってるよう関わってきた。

- ・ 預かり保育は異年齢の集団であるため、異年齢同士の関わり合いの中で、たくさん育ち合いがみられる。そんな育ちを大切にしたい。
 - ・ 子どもの気持ちを汲み、子どもと同じ目線で寄り添い、子どもの気持ちが動くような言葉かけを工夫したい。
- 危機管理・安全管理の観点において、園生活や自身の園児への関わりについての考察
- ・ ヒヤリ・ハットの共有は有効。より素早く対応できるようにしたい。報告された事項について、職員全体で環境改善等についても検討できるような時間が持てるといい。
 - ・ 防犯、安全対策など、意識が薄れないようにし、保護者が安心して子どもを預けられるようにさらに具体的な手立てを工夫したい。
 - ・ 子どもの人権擁護の観点から、セルフチェックリストなどを「共有し、自身の振り返りが出来るようにし、保育の質向上につなげていくことが良い。
 - ・ 子ども自身の危険回避能力が乏しくなりつつあると感じるため、そんな力を育てるための研修等があれば受講したい。
 - ・ 園庭で子どもが遊んでいる際、管理の保育者が十分でないことがあったため、気を付けたい。
 - ・ 大雨で周辺の道路が冠水した時があり、預かり保育の保護者の迎えの際危険を感じる時があった。預かり保育の迎えの要請等難しい面もあるが、早め早めの対応を考えたい。
 - ・ 火災訓練では、消火器（訓練用）を使っての体験ができて良かった。